

西伊豆健育会病院 看護部 看護補助者 土屋 善明

- 功 績 手術室において、サプライスタッフがいなくても滞りなく器材・物品が準備され、定期外の日であっても速やかに手術ができる仕組みを構築した功績。
- 推 薦 者 2階病棟 師長 藤井 聡
- 推 薦 理 由 自身の業務の「ムリ・ムダ・ムラ」を無くすことで、定期外の手術が速やかに行えるようになり、手術ごとに毎回難渋していたサプライスタッフの勤務変更の解消と患者さんへの手厚いケア、看護師の業務負担の軽減を実現してくれたため。

内 容

土屋は入職20年目の看護補助者です。家がお寺で、父親の逝去と同時に家業を継ぐこととなり一時退職も検討していましたが、私たちの強い引き止めと地域医療に貢献したいという本人の強い信念から現在もパート職員として勤務を続け、手術室には欠かせない存在となっています。今回土屋は手術室のサプライ業務において、スタッフがいなくても滞りのない手術ができる仕組みを構築し、成果を上げたため、理事長賞に推薦致します。

これまでは手術の際、サプライ担当職員が手術に応じて必要な機材・物品を選定し準備、手術中もオペ室に入りサポートを行っていましたが、土屋は業務の標準化・効率化の観点から、器材だしの担当職員がいなくても毎回スムーズに安心・安全な手術ができる仕組みづくりを開始しました。まず、サプライの器械を整理し、使用頻度の高いものを出しやすいようにまとめ、医師の望む機器の配置や、サポートにつく看護師にもわかりやすい配置の工夫をしました。

また、大腿骨頸部骨折の手術では部位や術式ごとに使用する物品・器材をセットにして保管することで、毎回物品を選定する業務も効率化できました。現在も更に効率よく物品を管理できないか医師・看護師の要望に応えながらマニュアルを見直し改善に努めています。

今年度4月16件・5月10件の手術のうち、定期外の手術が4月3件、5月1件ありました。これまではサプライスタッフの勤務調整に難渋していましたが、今回、どんな手術（術式）にも対応できるように準備できていたため、滞りなく定期外の手術を行うことができました。また、サプライスタッフが手術中にオペ室に入らないことで、病棟患者さんのケアにあたる時間も増え、看護師の業務負担軽減、そして何よりも患者さんへの手厚いケアにもつながっています。

今回、自身の業務を振り返り「ムリ・ムダ・ムラ」を無くすことで、定期外の手術が速やかに行えるようになり、患者さんへの手厚いケアを実現した「看護補助者」と「お寺の住職」という二足の草鞋を履く土屋を理事長賞に推薦いたします。